

アジアの水問題と地球環境～日本企業の役割を考える～



21世紀は水の世紀だ。水資源は枯渇し、2025年には、世界の3分の2の人が、安全な水へのア



クセスが困難となる。水は石神川上に貴重な資源となるらしい。そのなかで、水に恵まれているのが日本である。森林が豊かなからだ。森林は豊かな海ももたらすが、つながらているのだ。こうしたつながりを意識したのが本セミナーである。つながりの中には、日本が食糧の輸入を通して、世界中の水資源を消費していることもあつた。世界の水資源問題と、日本は無関係ではないのである。

開催趣旨

人間文化研究機構 総合地球環境学研究所

教授 阿部健一氏



当財団は平成元年、アジア・オセアニア地域の平和と繁栄、わが国などとの友好関係に貢献することとを目的として、りそなグループ

371件で約4億6700万円。小さな国際交流が大きな効果を生む「バタフライ効果」を、今後も目指していきたい。

を著む（主催りそなふアサ・オセアナ財團、共催、関西アジア太平洋と地球環境を考えるセンター）森が豊かなアサ太平洋と地球環境を考えるセンター

きょう大阪市のホテルで開かれた、市民約300人が参加した、わが国の森林資源の実や木材利用の現状、自然環境保全の必要性をテーマとし、証言報告、未来に向けての環境保全のあり方などを採るパネルディスカッションも行われ、熱い関心を集めた。

主催者あいさつ

公益財団法人リそなアジア・オセアニア財団

理事長 廣富靖以氏

NPO法人 森は海の恋人 理事長
京都大学フィールド科学教育研究センター
社会連携教授

畠山重篤氏



今こそ森を、川を、海を想う時

酸、またそのなかで最後に残る成分がフルボ酸になります。フルボ酸に鉄分が結び付いてフルボ酸鉄になり、森から川を経て海に流れ、これらの成分が糸車のようにつながって海の生き物に養分として恩恵をもたらす。いい森があつて河川が流れていて汽水域は世界中で大きな漁場になっているのです。ですから力キの養殖をしています。

おり自然は互いに助け合って結び合っている。豊かな水は、魚や農産物を育む。こうした自然の循環を維持するためにも森を守ることが何より大切な。

東日本大震災は、森や川、生き

東日本大震災は、森や川、生き物など地域の状況を一变したことが、今では、次第に元の姿に戻りつつありますが、私たちの運動も再開。これまで約3万本もの植樹を手掛け、これに地道な行動が教科書にまで紹介されともううれしい。地球温暖化防止にもつながる運動なので、多くの人と協力しながら活動続けていきたい。

岩手県一関市重根町の矢越山
ひこばえの森で「第25回植樹
祭」が開催された

祭」が開催された

日本の森林をどう生かすか

0年代の世界的土地面積約3割を占めていたが、170年面積約37億700万haのうちに、森林が2割を占めていた。比較的大きい森林資源国を推挙する、森林の蓄積量と木材の生産量は、人工林を占める年毎増え、総蓄積量約44億立方m、年産木材約1億立方mと、数字的にも豊かさを誇っているといえる。人工林の大半は杉やヒノキなどだが、樺や木をきんとした手入れして正しく使つてこが大切だ。

これを意味する資源が化石し、二酸化炭素(CO₂)の吸収能力が農山村地域の活力低下に拍をうける。の現状は、山を伐採しては、森林を失くして伐採した木を適度に使用してを打破すること。開発費用として土壌が再生し、CO₂の吸収も増えて、環境保全につながる。元氣な森林は農山村を育てるためにも木を伐り、木を使ふ必要が、そのこと。利用は多く多動力がある。木には健康増進作用などがあり、木や壁などの内装に利用するとは健康増進作用も期待できる。また、木が持つ成分が精神安定作用に働きかけて安眠を促進し、効用を発揮することなども知られるようになった。最近では駅舎、校舎、空港、港、観光施設などの公共施設に木造建築物の採用が増えた。木を使ふといつとは、山に原料を支つたことになり、雇用促進にも有効な、豊かな森林に恵まれたが、木を正しく有効活用し、循環する時に入つていきたいと思います。

林野庁林政部長
末松 広行氏

基調報告



作家・環境保護活動家
C. W. ニコル氏

わたしの自然日記2013

の実態に燃れることができた。

イギリスの著名な長野・黒根に移り住んで、日本の自然を、

現在、約30年の森林生活で有しているが、森は生きていると云ふことを学んだ。森は光が最も、放置して置くと雑草が枯れ木などで荒廃する。

また、常に豊かな水も決して欠かすことができない。

1. 地下水が湧き出ることと森は死んでしまう。太

陽の光と水が一体となって、美しい森を育み活性化に

つながる。海を豊かにする。土壌は、鮮汁を

潤上して森の中に入る。すると熊が食を食へ、食い残

りから森に葉が溜く、生命の連鎖が森から始まると

思ふ。

森は、スタックと云ふ元気な森を生きるために適正な

伐採で、森を取入れ、水が潤やうすい環境に葉を

て今の美しい森を取り戻す。これは、木間から

太陽の光が木と木が通る。きんぎと土と樹根

を行つて、森の多様な森が豊かに育ち、今では絶滅

危機種の生物が3種も増える事になった。

森の中に入ると生き物、土気がみえり、やがてく

りて無駄にしている。間伐は、机や椅子に

美しい森木のある日が素晴らしいエデの園に

なると、私は常に美しい森の手帳などにを

配りながら、自然をいつも守り育つようにして

きた。

作家・環境保護活動家
C. W. ニコル氏

事例報告①

チェンマイの山に桜を

(北部タイ地域における荒廃森林の回復)

タイ・チェンマイ大学
農学部部長

ティラ氏



チェンマイは、タイ北部の

日本の大学と交換留学や研究交流が盛んで、生徒数は約3万7千人に及び、マンモス校だ。
近畿大学などと協力して自然保護活動を展開しており、今年度から財団の支援を得て、サクラの植林活動がスタートした。タイの高山地帯に自生するカシノヅクラを繁殖したチェンマイの山中に植林するもので、今年度は約千本を植えた。5年後には花をつけ、花見できむこととなる。

事例報告②

マレーシア・ペナン州

零細漁民による水産資源保全活動

特定非営利活動法人パルシック 井上礼子氏



私は現在、大きく分けて①零細漁民による植林活動

の拡大②イベントを通じてマレーシア市民の植林活動参加③日本社会との交流④など3つの事業の支援活動を展開している。
零細漁民組織 PFWA (ペナン浅海漁民協会の) による環境保全のためのワー

パネルディスカッション「美しい水、そして海は、森から始まる」



【パネリスト】
林野庁林政部長 末松 八丁氏
近畿大学教授 広行氏
津田産業社長 八丁 信正氏
作家・環境保護活動家 津田 潮氏
【森は海の恋人】理事長 C・W・ニコル氏
【コーディネーター】 畠山 重晴氏
人間文化研究機構総合地球環境学研究所教授 阿部 健一氏

〈出席者〉

すみやすい環境、なるはずだ。畠山 川の流域の環境整備は、とても素晴らしい活動で高く評価できる。ウナギは、南の海で産卵して子供がシラスを日本近海に連れて来ると海で一生を終える。森の恩恵を受けてウナギの保護対策は初めてと思う。深川のウナギが戻ればとてもうれしい。

末松 企業の環境への取り組みとして、とても素晴らしいことと活動で川と森と海がつながっていることをアピールできれば、それだけで価値があると思う。森を守る考えは重要だが、地域に応じた森づくり、保護のあり方がポイント。近年、自治体などで植樹活動支援するケースが増えた。企業の環境保護運動も盛んになり、適正な伐採を行うなど、正しく手を加えて

する愛情が深まる。外に出て活動に参加する姿勢を持つためには、楽しく気軽に学べる受け皿も必要だろう。活動に合わせながら財源を確保するため、支援してくれる企業参画を期待したい。

——時代の変化に伴って、環境に対する価値観も変わったのでは。ニコル 人間にとって環境とは何か、何が大事かを理解してほしい。自然環境はあらゆる

連鎖で成り立つ。森の環境を考えると、単に木を植えるだけではダメ。光、風の通り道などを頭に入れてあらゆる生き物が生息できるようにすることが大切。森はいつの時代でも私の心のふるさと。気持ちのいい森は、香りと空気がやさしい。鳥などの鳴き声もあり癒やされる。日本には美しい森が多くあるので、もっと自然と親れ合い恩恵を受けてほしい。

魚がすみやすい環境整備を 地域に応じた「森づくり」へ 川の流域いかに大切にするか

津田氏 末松氏 畠山氏



津田 潮氏

いってほしい。八丁 環境問題が叫ばれるなかで、個人も企業も何かしなければという気運が感じられる。こうしたきっかけづくりはとても大切な。自分が植えた木が成長すると、うれさと自然に對

わが国は、一方で緑を削り、世界で最も多くコンクリートを含む環境にもなったのが津田対策。防波堤の見直しが行われているが、コンクリートの高い防波堤をつくることに疑問を持つ。生命と環境を両立を優先するかの問題はありますが、強制的に優先させるべきではない。防波堤の確保は重要な課題。水防対策は必要ではないが、水の都は水の事故に弱い。防波堤ももつて活用して自然と調和できないか、考えるべきだ。

末松 防災対策については専門分野ではないが、例えば、津波対策に関しては海岸の防砂林の活用と地形条件に応じて考える必要があると思う。地元の方々と専門家の考えをうまく反映することが必要。震災後に限らず、現在のコンクリート防波堤を修理したり、新たに設けるべき場合もあるが、周辺環境との調和など将来をしっかりと見据えて、よく議論してほしい。

八丁 これまで、効率重視の観点から水路をコンクリートに変えて、生物の棲家を奪ってしまってきた。最近では、一部クリートがいかどうかは難しい問題。時代の使い勝手優先の考え方を改めるべき。木をの良さを直して、もっと活用すべきでは。津田 ツーバイフォー住宅は、今回の震災でも倒壊などの被害が極めて少なかった。木の優れた強度と耐火性などが認められたことで、高台で新しく木の家を求める需要が増えている。

ニコル わが国でもコンクリート、木の公共物が増えつつある。森で長い年月を経て成るのではないだろうか。

労働面での環境整備も必要 ニコル氏 川と森と海の関連性知ること 八丁氏



八丁 信正氏

長した木は、私たちの生命財産や暮らしを温かく守っている。末松 木の持つ香りにも注目したい。癒やし効果や精神安定など、多くの効能が知られている。こうした大切な木を育む森をいつまでも守り続けていきたい。

ニコル 若い人が森の仕事に就けるような労働面での環境整備も必要。森で働いて森の命を自ら感じてほしい。森林に積極的に出かける機会を多くする環境保全の大切さを知ってほしい。

畠山 「森は海の恋人」運動を25年間続けていますが、その間、わが国はITなどを中心に横の関係だけ重視してきたように思う。もっと身近な環境問題に敷く目をつけて、必要がある。この国土には約3万5千もの河川がある。これらの川の流域をいかに大切にすることを考えてほしい。そして川と森と海はつながり、あらゆる生き物の生命を育んでいることを知ってほしいと思う。

PR

企画・制作 産経新聞社営業局

主催 公益財団法人リそなアジア・オセアニア財団
共催 大阪府 関西経済連合会
協力 大阪商工会議所

後援 大阪市 日本貿易振興機構 (JETRO大阪本部)
一般社団法人 大阪府木材連合会 産経新聞社
りそな銀行 近畿大阪銀行